

## 1. 概要

### 1) 調査件名

山崎断層帯に関する調査

### 2) 調査の目的

山崎断層帯東部を構成する琵琶甲断層，三木断層，草谷断層及び暮坂峠断層の活動性等を明らかにし，地震防災対策上必要な基礎資料を得ることを目的とする。

### 3) 実施期間

平成 11 年 7 月 28 日～平成 12 年 3 月 31 日

### 4) 地域活断層調査委員会の構成

下表参照。

表 1.1 兵庫県地域活断層調査委員会

(◎：委員長，○：副委員長)

氏名	役職
安藤 雅孝	京都大学防災研究所教授
◎ 岡田 篤正	京都大学大学院理学研究科教授
加藤 茂弘	兵庫県立人と自然の博物館研究員
白崎 航一	神戸海洋気象台台長
○ 寒川 旭	通産省工業技術院地質調査所大阪地域地質センター地域地質調査官
高田 至郎	神戸大学工学部教授
藤田 和夫	大阪市立大学名誉教授
松田 時彦	西南学院大学文学部教授

### 5) 調査担当

兵庫県知事公室

防災企画課	課長	長棟 健二
	係長（計画担当）	高見 隆
	事務吏員	白石 豊

サンコーコンサルタント(株) 大阪支店

技術部	部長代理（地質担当）	佐野 正人	（技術士（応用理学部門））
	課長代理（地質担当）	柴田 辰広	（地質調査技士）
	主任（地質担当）	浅井 功	（地質調査技士）

## 6) 調査結果の概要

平成 11 年度は、山崎断層帯東部を構成する琵琶甲断層、草谷断層や暮坂峠断層の活動性の評価を行なうために、各断層においてトレンチ調査およびそれに付随したボーリング調査、地形地質調査（ピット調査）を実施した。また、活動性評価に先立ち断層の連続性、伏在部の確認が必要と判断された琵琶甲―三木断層については、反射法地震探査を実施した。

平成 11 年度調査の結果、トレンチ調査を実施した琵琶甲断層、草谷断層では、1000 年前～3000 年前の間に少なくとも一度は活動していることが明らかになった。また、暮坂峠断層においても、約千数百年前以降に大きな地変が発生していることが明らかになった。前二者については、現時点で活動間隔を正確に求めることは困難であるが、少なくとも完新世以降 2 回以上活動していることも判明した。また、反射法地震探査を実施した琵琶甲―三木断層では、断層の伏在が予想された付近において、断層により形成された可能性が高い段差構造が検出された。

以上の結果、山崎断層帯東部を構成する断層の最新活動時期も、同西部の断層同様 868 年播磨地震に相当する可能性がでてきた。しかし、活動間隔については、1000 年～3000 年程度の可能性は考えられるものの、現段階では確実性にかける。また、琵琶甲断層と三木断層が連続する可能性の高いことが判明した。

今年度の調査で、山崎断層帯東部を構成する活断層も西部の断層帯同様、最近も活発に活動していることが判明した。しかし、現段階で山崎断層帯全体を評価するには、推定要素が大きい。今後さらに、活動間隔や変位量を含めさらに新たな情報が期待できる箇所においてトレンチ調査等を実施し、それらの結果を踏まえて山崎断層帯評価を行なう必要がある。